

# STYLISTIC ANALYSIS OF THE ARCHITECTURAL ORNAMENTATION AND DATING OF THE *SCAENAE FRONS* OF THE THEATER AT ANCIENT MESSENE

日本建築学会計画系論文集 第78巻 第684号/pp.485-495 /2013年2月

正会員 吉 武 隆 一 殿

ギリシアの古代都市メッセネで発掘されたローマ時代の劇場について、その現地調査に日本隊の一員として参加した著者が、得られた一次資料（実測図面や写真データ）を生かして、膨大な先行研究も参照しつつ、建設年代の編年と地域的特質の考察を行った論文である。主に柱頭の形式や、エンタブレチュアおよびペDESTALの様式分析を行い、その結果として、劇場の建設が従来の考古学者による推定年代より遡ることと、ギリシア本土や小アジアの強い影響下にあったことが新しく主張されている。一連の作業は非常に丁寧で綿密であり、導かれた見解は説得力があるものとなっている。

日本人研究者がヨーロッパの古代建築の発掘に直接関わり、その検証結果を英語の論文として公表していることは、わが国の研究水準の高さを示すとともに、国際的な研究の進展にも一定の役割を果たし得るものとして高く評価できる。今後は、日本人の西洋建築史観を生かした独自の研究を、さらに深められることを期待したい。